

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU



January 2016
No.755



元気の出るふるさと講座(浦川原編)「手作りの小さな文化発表会」(上越市)

受講者で企画・運営し、なくなっていた発表会を復活させました。

「12月号表紙コメント文に誤植がありました。誤:ひろばサクラ 正:広場 桜」お詫びして訂正します。

4~5 特集 第2回座談会「私の公民館活動とこれからの公民館その2」

CONTENTS

- 2………… トピックス 下越地区研修会・新潟市研修会 開催される
- 3………… 視 点 「三者三様！ 十人十色！」 新潟県少年自然の家 課長 平野 智樹
ひ ろ ば 「頭痛の種」 新潟市公運審委員 田代 正孝
- 6………… 実践記録シリーズ 交流を核とした地域づくりを目指して 見附市上北谷公民館
- 7………… サークル交流 「エンジョイ! フォトライフ!」(加茂市) / 「虫のさなぎが大変身! 地域を繋ぐまゆの花」(粟島浦村)
素 顔 拝 見 神田 和典さん(聖籠町) / 古澤 徹さん(燕市)
- 8………… お元気ですか 「新たな交流を求めて」 新発田市・中野 孝夫さん
ネットワ-ク

下越地区研修会・新潟市研修会 開催される

「下越地区公民館職員研修会」

期日 12月11日(金)

会場 新潟市アグリパーク

教育ファーム

内容 1 園長の事業説明

施設見学

2 搾乳等体験

3 情報交換

あいにくの雨天でしたが、参加の23名は終日熱心な研修を行いました。

アグリパーク教育ファームは全国初の公立農業体験施設ですが、特色として、学校の授業として行える多くの学習プログラムを有していることから開園以来多くの来場者がいます。県内はもとより今年も県外からの来場者が増加しているとのことでした。

今回の研修会は、公民館の事業として利用できるかを検討する機会として下公連が企画したものです。

参加者は、下越地区全域の市町村の公民館職員で、事業担当者が多く、来年度の事業として



「おっかなびっくり」 搾乳体験



熱心な説明 真柄園長

実施できるかを真剣に考え、園長さんの説明に熱心に聞き入るとともに、その後の質問時間では、事業と関連させた質問が多く出ました。
また、午後の搾乳体験は大変好評でした。



餌やり

「新潟市公民館改革職員研修会」

期日 11月29日(日)

会場 横越地区公民館

市内の公民館から128名の職員が参加して開催されました。研修は終日にわたって行われ充実した研修になりました。

1 講義 地域教育推進課長 佐々木克己氏

2 事例発表

(1) 「男の心 台所」

山際結城(石山地区公民館)

(2) 「うちのでない」

高山桃子(西地区公民館)



わかりやすい講演 牧野氏

プログラムは豊富で、1〜4とも実践的で内容も濃く、実り多い研修会になりました。特に、牧野氏の講演は大変わかりやすく、内容も実践的事例が多い講演で好評でした。

(3) 「男の自由時間」

野崎義和(白根地区公民館)

3 基調講演

牧野 篤氏(東大教授)

「社会をつくる字び」

公民館の新しい役割

4 ワールドカフェ

指導 立松有美氏他



事例3 野崎氏



事例2 高山氏



事例1 山際氏



「頭痛の種」

新潟市中央公民館
運営審議会委員
田代 正孝



君は君、我は我なり、されど仲良き。武者小路実篤の「讃」が好きです。

さて、公民館との関わりはサークルを結成、中央公民館に登録して、27年9月で15年が経過しました。基本は、来る者拒まらず去る者追わず、の考えで現在に至り、年会費1000円を頂き活動しています。

新潟市の場合、公民館・生涯学習センター・地域コミュニティセンターの機構があります。お互いに連携して地域社会の発展に寄与すれば良いと思います。公民館には、学習機会の提供や地域社会の交流の場提供と、支援への期待が上げられると思います。利用者同士の関係を深めることも重要です。そこで公民館使用団体連絡協議会があり、今は会長の役職です。協議会は年会費1000円で運営されています。ところが困ったことに

未加入サークルが急増しています。公民館登録サークルは、カルチャー教室とは異なると考えます。公民館サークルの趣旨を訴えて理解を頂き加入を図るしか方法は見当たらず、時間と手間がかかり、頭の痛い課題です。君は君我は我で終わらずに「されど仲良し」になって頂きたいと願っています。

視点



新潟県少年自然の家
課長 平野 智樹

「三者三様！十人十色！」

皆さんこんにちは！今年度も各市町村公民館主催事業にて、当所をご利用いただきありがとうございます。感謝申し上げます。

突然ですが、85才になる私の母が3年前、心筋梗塞で倒れ、入院した際の医者・母・私のやり取りの話をさせていただきます。

《廊下にて》

私 「おふくろ。医者が何を言ってもハイと言って聞いていないんだよ。質問したって専門用語で何を言っているかわかんないんだからね。」

母 「わかってるって！」

何かと知ったふりして、結局

局、何か失敗する母の言動を見越しての一言です。

《診察室にて》

医 「今回は、血管に詰まった血栓が、苦しんでベッドから落ちた際に奇跡的に流れたみたいで大事には至りませんでした。ただし、心臓の弁が堅くなっていますので、健康管理には気をつけてください。」

私 「分かりました。今後もしっかりお願いします。」

母 「よろしくお願いします。とこで〜。」

私 (マズイ。。。)

母 「ところで、その堅くなった弁は治るんですか？」

医 「治りません。」

母 「洗腸してもですか？」

医 「洗腸してもですか？」

私 「おふくろ。。。弁違い。。。」

医 (笑いをこらえながら)

「お大事に。くっくっ。」

このように、勘違いが笑い話で済むような事であれば良いのですが、大事に至ったら大変です。現在、私は施設を利用していただいてる立場にあるため、利用者の方々の勘違いや行き違いが、利用者への大事に至ることを理解しています。私はそのようなことが絶対にならないよう細心の注意を払っています。それでも勘違いや行き違いが起ることがあります。公民館職員の皆様も同様ではありませんか？

三者三様！十人十色！世の中にはいろいろな人います。年齢・性別を問わない不特定多数の方々に対する立場、利用者のニーズに答える立場であることは、自然の家も公民館も同じです。利用者の皆さんに満足していただけるよう共にがんばって行きましょう。

掲示板 HOT NEWS

正副会長会開催される

12月2日(水)新潟市中央公民館において正副会長会が開催されました。

協議と内容は次のとおりで、2月開催の第2回評議員会に議案として提出されます。

1 新潟市を地区とし全県4地区

構成の組織にすることについて

原案:平成28年度から県公連の組織を新潟市と上・中・下越地区公連の4地区体制とする。

2 会長職の持ち回りに新潟市を加えることについて

原案:平成30年度から会長職順に新潟市を加える。

3 県大会の開催地区順で上越地区開催を1回外すことについて

原案:平成28年度上越地区主管大会が終了後、次期順で1回外す。

特集

第2回座談会「私の公民館活動とこれからの公民館その2」

1回目の座談会は12月号に掲載しました。今号では12月10日(木)に行った2回目の座談会を掲載します。



テーマはどちらも「私の公民館活動とこれからの公民館」で、1回目は、新潟市以外で、公民館の活動を行っている市民・一般の方々3人をメンバーにして意見交換を行いました。今回2回目は、新潟市内から男性1名、女性2名から集まっていたいただきました。

〈座談会メンバー〉

- 清野みよ子(新潟市東区)
- 石川 順子(新潟市中央区)
- 掛川 洋規(新潟市西区)

- 司会 田原 理(県公連事務局長)
- 記録 船山 靖子(新潟市公民館職員)
- 島津 和子(県公連事務局員)

(田原) 本日はお忙しいところ座談会にお出でいただきありがとうございます。本日は先月の第

1回座談会に引き続き、第2回目として皆さんからお集まりいただきました。1回目は新潟市以外、今回は新潟市の皆さんのみで構成されています。それぞれ、現在、公民館活動を実践されている方々です。

今日は、公民館の活動やこれからの公民館がどうなっていくかなどを、一般の市民目線で、意見交換をお願いしたいと思います。前半は自己紹介を含めて、ご自身の公民館活動についてお話しください。

(清野)

初めて公民館に行ったのは、高校生の時「ロシア語講座」に参加しました。以来、40年以上公民館で活動しています。地域のサロンのスタッフです。子育てサロンでは事務局や会計のお手伝いをしています。



どちらも10年以上続いています。また、スタッフの研修をしてレベルアップを図っています。

(田原)

今の公民館活動は「地域」「子育て」がキーワードになっているので、それを10年以上前から続けているのは立派ですね。

(石川)

佐渡生まれです。結婚を機に新潟市に来て

10年です。公民館には「幼児期家庭教育学級」を受講したと子ども居場所スタッフとして立ち上がりから活動を続けています。幼児向け「ひよこらんど学級」の活動は5年目です。活動協力員として「いきいきセミナー」「プレママ学級」に3年かかっています。



今年、児童向けの講座も立ち上げました。小学生になってからも子どもと一緒に公民館に親が来て欲しいという願いからです。

(田原)

スタッフとして声をかけられ、それに応え、前向きな活動をしていることは素晴らしいことですね。

(掛川)

群馬県前橋市出身です。新潟大学生のとき、始めは、西地区公民館の「まなび屋」にボランティアで参加した程度でしたが、「まちづくりコーディネーター養成事業」への参加を機に現在活動協力員です。4年生の時から坂井輪地区公民館の



地域コミュニティコーディネーター養成事業の企画・運営にもかかわっています。

「内野キッズランド」「うちのでない」とは青少年・若者が対象事業で、様々な体験活動を取り入れて参加しやすいイベントを目指しています。

(田原) 西地区公民館では、子ども、地域、子育て、若者の活動を、まちづくりにつなげているということですね。まさに、現代的課題にマッチしている事業ですね。

次に、皆さんが公民館活動をやっている、何かに突き当たっているとか困っているとかありませんか。

(掛川) 事務的なことは公民館の職員さんがやってくれるので、私は、本来のごうしたら若者が集まるのかに集中できています。情報発信の手段としてフェイスブックを提案しましたが、市の運営規定上の問題があり実現していません。実際は大学構内にポスター掲示が現状です。

(田原) 人集めの情報発信は大事ですね。実際はチラシやポスターですが、金がかかるわりには高い効果があるとはいえません。これからはネットの活用をますます重視しなければならいでしょうね。

(掛川) 「うちのでない」との募集には年齢制限を設けました。同年代の人の活動にしたかったからです。大学生の「コミ」で集まりました。

(石川) 「ひよこらんど」では母親にスタッフになってもらいますが、子どもが大きくなると同時に辞めてしまう状態がありました。そこで、母親たちへのボランティア精神の育成を重視した結果、みんなで責任を持って取り組む考え

が出てきて、今は、スタッフが増えてきました。スタッフには転勤族が多いです。孤立したくないという思いからサロンに参加したり、交流を持つ動機になっているのではないかと思います。

1人で悩んでいる母親が多くて、一度の講義では解決しません。企画に工夫が必要です。

(掛川) 「キッズらんど」では、参加者100人にスタッフ50人いるので、手がかかる体験活動の補助を個人対応でできました。

(清野) 昨年実施した「夏休み子ども教室」は、様々な個性の子どもがいて対応が大変でした。今年はスタッフが少なくできませんでした。

小学生と「昔遊び・あやとり」をやっていたら、技を子どもから教えてもらいました。地域の人が放課後などに教えているようです。

(田原) 体験活動を成功させるには、活動を支えるスタッフの存在がとて大切ですね。地域教育コーディネーターの存在が注目されています。

(清野) 学校と地域をつなぐ地域教育コーディネーターの役割は大切ですね。ある時、子どもたちにもメダカを見せたいという話があり、コーディネーターの声かけでいっぱい集まりました。

「子育てサロン」は乳幼児が集まりますから危険防止のためにある程度広い場所が必要ですが、私たちの近くには無くして他の施設に行ってしまうようです。

「地域のサロン」では参加者が高齢化している、みんな70歳以上です。団塊世代の人たちが参加してこない現状です。

(田原) 団塊世代の人たちが70代半ばになる頃は、

現在の小・中学生が働き始める頃です。超高齢化社会です。

今の時期から、この団塊世代の人たちに社会活動参加の機会として、公民館活動に参加してもらおうことが大切だと多くの社会教育関係者が提唱しています。

(清野) 60代の人に参加しやすい企画が大事です。バス旅行に「切り餅工場」を入れたらたくさんの方が集まりました。

(石川) 男性をターゲットにした「男の料理教室」が3年目に入っています。終了後のサークル化も、いい企画だと思います。同世代交流も大切ですが、よりよい社会になるために他世代交流がもっと広がれば良いと思います。赤ちゃんと中学生やおばあちゃんとかがかかわり合うことができるのは公民館だけです。事業として成立するには良い企画がないと難しいですが。

(掛川) 身近な拠り所として多世代が集まれるのは公民館です。他地区から来た人や若者が公民館に来て地域とつながり、その人たちが地域に入って地域が変わっていくのではないかと思います。

(田原) 今日は大変良いご意見、ご提案をいただきました。

どうぞこれからも公民館を応援してください。ありがとうございます。



記録：船山靖子 (新潟市職員・月報編集委員)

実践記録シリーズ

214

交流を核とした 地域づくりを目指して

見附市上北谷公民館

見附市上北谷公民館では「交流」をキーワードに地域に根ざした公民館活動を行っています。高齢者が新しい生きがいを見つけられるように体験・学習の機会を提供し、その中で町内、世代を超えた広い交流を図り、お互いの顔がわかる関係づくりを力を入れていきます。生きがいづくりが地域の元気につながり、関係づくりが地域の助け合いへとつながり、そして地域全体の力が高まることを願っています。

くらし塾を立ち上げる経緯

見附市上北谷地区には7町内があり、この町内の老人会が加盟して地区老人会連合会を組織していました。連合会主催で「寿大学」という講座名で、年に3回(クリン作戦・グラウンドゴルフ体験会・新年会)地域高齢者の交流の場が計画され実施されてきました。しかし地域の高齢化に伴い連合会活動も衰退し参加者も減少していき、平成26年度には連合会に加盟している町内が1町内となり、連合会による講座の継続が難しくなりました。



グラウンドゴルフ体験会

公民館が主体となり、「月1回みんなが集まって楽しいことをやりましょう」をテーマに掲げ地域の交流の場を計画することとなりました。

活動の様子

1年目は、公民館を利用しているサークルへの体験参加、近隣の工場見学、落語独演会などを計画し、回数も月1回へ変更しました。しかし、以前と同じ寿大学という講座名で開催するため、主催が変わり全く別の講座といふことをうまく伝えることが出来ず、「参加したいけど…加盟していない町内だから」とい



糸魚川で健康ウォーキング



落語を楽しむ

う声が多く聞かれ、そのため参加者は、連合会に参加している町内の方が主な参加者でした。



サークル活動

今後の展望

「くらし塾」は、現在65歳から90歳近くまでの参加者がいます。参加者の年齢、性別、体調などがあり、全員が楽しめる内容を計画することはなかなか困難なことです。体験や見学などの内容の充実を図ることはもちろんですが、地区の様々な人に参加していただき、参加者同士の交流を深め、講座のちょっとした合間の雑談を楽しめるような講座にしていきたいと思っています。

(野本 博也)



エンジョイ!
フォトライフ!

加茂デジタルカメラクラブ

加茂デジタルカメラクラブは、平成19・20年度に開催された加茂市公民館デジタル一眼レフカメラ教室受講者が主体となり平成21年に発足しました。

現在は12名の会員でデジタル一眼レフカメラの撮影技術や撮影画像処理等の向上を目指し活動しています。

月一回、公民館を会場に勉強会を開催し、各自が画像データを持ち寄り構図・露出・シャッタースピード・トリミングなどについて意見交換や情報交換を行っています。

また、年一回の作品展、年二



回の県外への撮影会や専門講師をお招きしての学習会も行っています。

近年では、多数の会員が県展入選・市展入賞し活気あふれるクラブとなっています。

加茂市・加茂デジタルカメラクラブ
小柳 豪志 記

虫のさなぎが大変身!
地域を繋ぐまゆの花

シルクフラワー制作会

粟島浦村中央公民館では、毎年10月、秋に開催される小中学校文化祭に向けて、希望者による「シルクフラワー」の制作が行われます。子どものだけで



粟島浦村教育委員会
樋川 翔 記

なく、村民の方々の作品も展示されるのがこの文化祭の特徴です。「シルクフラワー」とは、まゆ玉を使った造花のことで、丸いまゆをカッターやボンドなどで花の形にしていきます。今年も、子どもの保護者や民宿のおかみさんなど10名ほどが集まって、和気あいあいと工作に励んでいました。

これからも公民館が、研修や講座の場としてだけでなく、地域住民の憩いの場として多くの方に利用してもらえたら嬉しいですね。

聖籠町 教育委員会 社会教育課
スポーツ振興係長 神田 和典さん



社会教育課は、「社会教育係」と「スポーツ振興係」の2つの係で多様な事業を行っています。そんな社会教育課スポーツ振興係に、様々な部署で経験を積み、体重も経験と比例するように〇〇kg増量して15年ぶりに復帰した神田和典係長を紹介します。

神田係長は町スポーツレクリエーション祭や町内オリエンテーリング、各種スポーツ団体との連絡・調整などを担当し、子どもからお年寄りまで多くの町民に親しまれる存在です。また、スポーツ振興係に留まらず、今や社会教育係の事業にまで活躍の場を広げ、もはやその勢いは誰にも止められない状況です。

社会教育課のモットーは「協働」です。神田係長は協働の精神のもと、担当外の仕事にも積極的に協力し、部下の相談に親身になり、的確なアドバイスをくれる素敵な先輩です。これからも、スポーツ振興を中心に様々な事業での活躍が期待されています。

(聖籠町 教育委員会 社会教育課 主事 足立 亮士 記)

燕市中央公民館
館長 古澤 徹 (自己紹介)

燕中央公民館長の古澤です。

出先機関の勤務、教育委員会の勤務は初めての経験で、ようやく1年が過ぎようとしています。一度見たら忘れられない顔と体型の持ち主です。市民と接することは大好きですので、この仕事は「天職」と思っています。地域のみなさんといっしょに、これからの燕市公民館活動を、広く世間に知っていただくために頑張りたいと思います。今後とも、よろしくお祈りします。

都の悪政を正すため闘った「酒呑童子」。越後で生まれ、国上山で修業をしたという伝説をもとに作った鬼面太鼓「分水太鼓」の一員です。昨秋も京都・大江山で太鼓を披露してきました。近くでイベントがありましたら、ぜひ見に来てください。
※ 提供の素顔写真がないため、掲載しませんでした。

素顔拝見

ネットワーク

にいがた生涯学習
県民フォーラム2015Ⅱ
子ども読書のこころ

平成27年11月28日(土)長岡市中之島文化センターで開催されました。

- 1 読書お便りコンクール表彰式
 - 2 講演「家読の力〜大人の気づき、子どもの成長」
柳田 邦男氏
(フニフィクション作家)
- 当日は悪天候の中、多数の県民が参加しました。



柳田邦男氏が自ら表彰しました。

生涯学習協会会長を
囲んで座談会開催
生涯学習協会では、平山征夫会長を囲んで活動の将



左:平山征夫会長 中:小川清貴氏(十日町市会員)
中右:梅津玲子氏(新潟市会員) 右:田原理(司会 協会広報委員長)

来像などを語り合う「座談会」を開催しました。
平成27年11月26日(木)
国際情報大学

お元気ですか

「新たな交流を求めて」

中野 孝夫
(新潟市)



定年後は健康が一番。とにかく汗をかくことが大事だと考えていた。
野菜作りで汗をかき、アルビレックスの応援で冷や汗(?!)、黒鯛釣りの楽しい汗、山登りでは脂汗をかく。
このような生活を目指してはみたが、早いもので退職し

てから一年が経とうとしている。アツという間違った。実行できたものもあるが、できないものもある。(悲しい!)

その時その場所ですごい出会いがあり交流があった。これからも新しいことにチャレンジし楽しい交流を増やしていきたい。
そのためにも、地域の拠り所、新たな交流の場として身近にある公民館を微力ではあるが応援していこうと思っている。

※「お元気ですか」コーナーは現役をリタイアした方がその後「元気に活動している様子」を紹介するコーナーです。

雪によって生ずる諸問題解決のため、取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊富な水資源や良好な自然環境に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。
協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会
会長(妙高市長) 入村 明(会員18市町村)
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館
TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

事務局長のつぶやき

新潟のスポーツが大活躍で締めくくった年末でした。先月号で紹介したラグビーの稲垣啓太選手が次期日本代表選手になりました。朗報は続き、水球のリオ五輪代表に柏崎ブルボンチームの4人が選ばれました。そして昨日サッカーのアルビレディーノが皇后杯の決

勝進出と快挙が続きました。男子が苦戦していた1年だけに胸のすく思いです。
新年は「猿年」。人生の3つの坂「上り坂」「下り坂」「まさか(坂)」の例え話のように「下り、まさか(坂)」に備えることが肝心。「猿も木から落ちる」ことのない1年にしたいものです。(田原)